

# 学校評価シート（自己評価）

ひさみ 幼稚園

## 1、園の教育目標

子どもたちに豊かな環境を保障して、子どもたちが環境との出会いの中で、驚いたり、感動したり、発見したり、考えたり、自らの興味や関心の要求の質を高め、豊かなあそびや仕事のある生活を展開し、人間としていちばん大切な生きる力を身につけられる保育を目指している。

## 2、具体的な目標や計画

改訂される『幼稚園教育要領』の内容を理解して、教職員全体で共通理解を図り、保育の質を高めていく。今まで通り園内研修の定期的に行い、幼児理解とよりよい援助を学ぶ機会を設ける。自園給食に向けて施設・設備を整えて食育に力を入れていく。幼稚園の特色である動物飼育や自然遊びに継続して重きを置き、子どもの心身の健やかな成長につなげていく。

## 3、評価項目の取組及び達成状況

評価項目	結果(※)	結果の理由
教員の資質向上	A	『幼稚園教育要領』の改訂に伴い、改訂の要点を教職員が認識し、それに基づいて保育できるように、園内研修を行って相互理解に努めた。また、引き続き毎日職員会議を行い、報告・連絡・相談の時間を大事にしていた。
自園給食への準備	A	自園給食の実施に向けて、調理室の改装工事、調理器具、食器、備品などの準備を整えることができた。また保護者向けの試食会・説明会を実施することができた。またキッズパーティーのお弁当を適したものに変わる方向性を固めた。
動物飼育	A	ポニーやヤギ、ウサギ、チャボ、魚などの生物を飼育し、子どもの豊かな心や愛情、命の尊さなどを育む保育を継続してきた。特に毎日動物飼育当番を体験する年長児には、観察力や知的な好奇心、命の大切さなどが育まれたことが調査結果としても明らかになった。
安全管理	B	緊急時のメール配信サービスを行う環境を設けたことにより、緊急時の保護者への連絡が混乱なくスムーズに行うことができた。また、園庭内の遊具の定期的な点検を行い、子どもの安全面の配慮をしたが、室内でのけがが数件あった。躓きやすい段差をなくすなど対策をとるとともに、「廊下では走らない」「友達を推さない」などの日常生活の決まり事を子どもたちにも伝えていく必要性が見出された。

## 4. 具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結 果	理 由
A	『幼稚園教育要領』の改訂の要点を、教職員に伝え、これから求められる保育について園内研修を通じて理解を深めることができた。また保育者一人ひとりが自己課題を見つけ、改善に努めるように意識改革を行ったことで、園全体としても保育力の向上が見られた。また、自園給食の準備や保育環境設備などハード面での対応が計画的に進められた。さらに、気になる子への配慮、家庭との連携、保護者会の在り方、保育者の資質向上など細かい部分での課題はあるが、自園らしさをもって、主体的で思いやりのある子どもの育成に努めることができた。

○結果(※)について

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取組が不十分である

5、今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
食育	いよいよ自園給食が開始されるので、アイコーメディカルとの連携を綿密に行い、食育に力を入れていきたい。食育だよりの発行の他、配膳方法・時間などを保育カリキュラムに合わせて柔軟に変更したり、アレルギー除去食を数回に渡り確認したり、給食室や調理員の衛生管理など徹底していきたい。また、偏食の子どもに対しは、無理強いせず、少しずつ食に興味をもてるようにかかわっていきたい。
小学校との連携	近年、3学期の小学校探検や入学する各小学校との連絡会、幼保小の3者合同連絡会など連携を図っている。今後は、小学校側に提案し、園児と小学生の交流事業を増やしていきたい。また、園児一人ひとりの情報交換会を綿密に行い、特に発達支援が必要な園児の連絡会を重視し、入学後スムーズな学校生活を送れるように連携を深めていきたい。
教員の資質向上	『幼稚園教育要領』の改訂で示された「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」について、教員一人ひとりが理解し、実践できるようにする。園内外の研修で、その具体的な姿と保育の指導のポイントを学ぶ機会を設けて、各自資質の向上に努めていけるように促していきたい。
環境整備・保育カリキュラムの充実	老朽化している冒険小屋・空のままごとハウスを改築し、新しくアトリエを設ける。そこで、自由遊び時間に、子どもたちが創造的な遊びを繰り広げる「クリエイティブ保育」を実践したい。自然物や廃材、新聞紙、粘土等を使っての造形遊びを主として、その中で、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の中にもある「豊かな感性」「表現力」「思考力」「創造力」「想像力」「友達関係」等を育むことに力を入れていきたい。